

R8 年度 レポート作成に関わって

文責：大塚 憲司（野幌中）

- ☆昨年度に引き続き、研究主題にある「変化が激しい時代の中で、自ら社会を創造する子どもの育成」に迫るため、副主題にある「社会的事象への関心を高め、見方・考え方を働かせ、自ら思考・判断・表現する授業」実践を積み上げていきと考えています。研究の方向性をより明確にするために「育てたい生徒像」と「目指す授業像」を提示しています。詳しくは HP にある「研究の概要と今年度の研究について」をご覧ください。
- ☆「社会的事象」とは、過去～現在の人々の働きや営みで成り立っているものです。社会科の授業の中で、学習者が社会的事象を自分事としてとらえ、これらについて見方・考え方を働かせながらより深く考えるためには、授業者が意図する仕掛け（手立て）が必要です。例えば、ICT の効果的な活用、単元デザインの工夫、教材・教具の工夫、思考ツールの活用等があげられます。このように考えられる中、今年度の研究では特に「資料提示・活用の工夫」を重点としてあげています。
- ☆「資料提示・活用の工夫」の具体例については、こちらも HP にある「研究の概要と今年度の研究について」に掲載していますので、授業実践の際の参考にしてください。

【レポートの様式について】

- ☆**様式は自由**とします。指導案様式やレポート様式等、先生方がご自身の実践を表現しやすい形を選択してください。
※石中社 HP にアップされている「レポート様式および内容」に沿ったレポートでも構いません。
- ☆二次研の分科会の中で、レポートをもとに特に「資料提示・活用の工夫」について説明ができるよう準備をお願いします。研究授業、分科会の討議・交流の柱は以下の通りです。
 - ⇒生徒が切実性・必要性を感じ、学びに向かう気持ちを高めることができたか
 - ⇒生徒の学びに向かう気持ちを、「知識・技能の習得」「社会的な見方・考え方を働かせた思考・判断・表現」につなげることができたか
 - ⇒単元や本時の学習（展開・まとめや振り返りといった終結）に効果的に生かされていたか

レポートの提出場所・提出期限等については、後日、事務局よりお知らせいたします。